

文化と産業の交流拠点(仮称)

旧富岡鉄斎邸(元京都府議会議員公舎)



■施設の見どころ

整備に当たっては、随所に整備前の古材や部材を再活用し、往時の再現に取り組むとともに、京都の伝統産業の技も取り入れている。

① 玄関

玄関扉には、整備前の引戸を利用している。また、新たに網代天井を設けたほか、長押には木目を際立たせる砂ずり加工を施す。



② 茶室「福寿庵」

小川流煎茶の家祖 小川可進の旧宅の遺室で、炉は切られていない。整備後は流派にとらわれず、利用いただけるようにした。庭園側の入口には四枚の腰障子（ガラス障子に変更）、茶道口には太鼓襖を再現している。床の間は整備前のものを再利用し、一畳分の地板が入れられた踏込床となっており、床柱は途中で切られている。室名は大徳寺の高田明浦管長猊下が揮毫したものを、指物師の岩木秀樹氏が扁額に仕上げた。



③ 画室

鉄斎が「無量寿仏堂」と名付けていた画室からは、多くの作品が生み出された。床の間は、踏込床となっているほか、落掛が二重に打たれている。地袋棚の上の円窓や床脇の八角窓、茶道口から見える稲妻型垂れ壁に文人趣味がうかがえる。欄間には、鉄斎下絵による彫刻が施されている。また、襖の引き手の一部には、当時のものを再利用しており、奥には、仏間が設けられていた。この画室は、小川流煎茶の三清庵 小川後楽堂（北区）にも再現されている。



④ 庭園

京都府の現代の名工でもある岡本耕藏氏の監修により、京都府造園協同組合が樹木や石材等を再利用して新たに整備した。画室から臨める石灯籠と蹲は鉄斎の長男・謙蔵の妻・とし子の回想記に「八幡の松花堂にあったものを、鉄斎が珍しく数百円を投じて骨董屋から買い、大切にしていた」と記載されるものか。



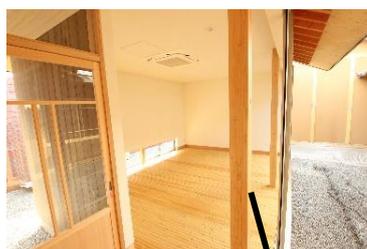
《伝統産業の活用》

ドアノブや手洗鉢、ランプシェード等に京焼・清水焼等を活用している。
画室では、京人形等の展示を行っている。



会議室 1

会議や展示会など多目的な用途に活用可能なスペース。最大 60 名までの会議に対応。(約 58 m²)



会議室 2

ミニキッチン併設した最大 8 名定員の小会議室。(約 16 m²)



和室
庭園を臨める 6 畳の和室。
既存の押入を水屋仕様に転用した。

※部屋名は仮称

参考文献 中村利則「町家の茶室」(淡交社 1981 年)

「鉄斎さんと京都をあるく」(『目の眼』2019 年 2 月 15 日号)

■施設概要

所 在 地：〒602-0918 京都市上京区室町通薬屋町 429
建 物 構 造：木造・平屋建て
設計・施工監理：株式会社京都空間研究所
施 工：株式会社藤木工務店 京都支店（本社：大阪市）
庭園設計・施工：京都府造園協同組合
工 期：令和 4（2022）年 8 月～令和 6（2024）年 1 月

■旧富岡鉄斎邸の変遷

明治 14（1881）年 小川其樂より土地・建物を購入
明治 15（1882）年 同地に入居（この頃増改築）
大正 11（1922）年 鉄筋コンクリート造 3 階建ての書庫「魁星閣」落成
画室拡張、6 畳座敷改造、縁を拡張し硝子戸とする
大正 12（1923）年 主屋改築、この時に隠居所（煎茶室、6 畳座敷、画室）とも接続
大正 13（1924）年 鉄斎翁死去（89 歳）
昭和 13（1938）年 鉄斎孫・益太郎氏、土地・建物の保存登記
昭和 22（1947）年 京都府が魁星閣と敷地南側部分を除き、土地・建物を購入
府議会議員公舎として活用
昭和 24（1949）年 京都府が魁星閣と敷地の残りを購入
昭和 38（1963）年 敷地東側の 2 階建て離屋・土蔵を解体し、議員公舎を新築
昭和 45（1970）年 6 畳座敷西の便所を解体
平成 24（2012）年 府議会議員公舎としての役目を終える
平成 25（2013）年 京都府委託事業 歴史的、建築的価値にかかる調査（京都工芸繊維大学）
平成 29（2017）年 ～平成 30（2018）年 元府議会議員公舎（旧富岡鉄斎邸）サウンディング型
市場調査（京都府府有資産活用課）

京都府議会議員公舎時代の様子 ©京都工芸繊維大学 清水研究室



室町通から臨む外観



庭園から臨む画室全景